

# 戦国の動乱と池田氏

最終回

## 池田氏の文化

応仁の乱以後、血生臭い戦乱の世が続くなか、これとは裏腹に池田では、宗祇や肖柏、正広といった当代きっての歌人を招いて頻りに歌合興行が催されています。

『政覚大僧正記』文明十九年(一四八七)三月十四日の記に「一略―池田庭倉以下拝見之、驚目者也、一略―とあるように、当時の池田氏は摂津の強大な勢力として、軍事的、また経済的繁栄を誇っていたことがうかがわれます。しかし、その繁栄は、同時に文化的な側面をも備えたものでした。特に、連歌は当時の文芸の中核を成すもので、多くの句集に散見する池田一族の名にその傾倒ぶりをうかがい知ることが出来ます。

千句、延徳三年(一四九一)池田正種主権の『何木百韻』、明応三年(一四九四)同じく正種主権の『何路百韻』などがあります。このような背景には、当時屈指の歌人であった正広の長享年間に池田に居を構えたこととも関係があるものと考えられています。明応四年(一四九五)、宗祇、兼載を中心に肖柏、宗長らの手によって『新撰菟玖波集』が編まれました。この連歌撰集には、正種、正盛、綱正、寿正、正能など池田一族が入集されています。その質の高さを示すものといえます。

「消えぬよしふるおみ山の春の雪」という正種の発句に、宗伊、宗祇が続いています。この興行には、肖柏、正広をはじめ池田正能などといった池田一族が多く参加しています。

つづいて、文明十七年(一四八五)波々伯部盛郷興行の『何路百韻』には、宗伊、宗祇らにまじって、やはり池田正種ら池田一族の参加がみられます。また、塩川豊前守秀満や能勢因幡守頼則らの名もみえ、北摂の武将の間で連歌が盛んであったことが知られます。

北摂の武将によって主催された主権されたものであつたかと思えます。文明十七年能勢因幡守頼則による「新往吉千句」、長享二年(一四八八)、やはり頼則による

千句、延徳三年(一四九一)池田正種主権の『何木百韻』、明応三年(一四九四)同じく正種主権の『何路百韻』などがあります。

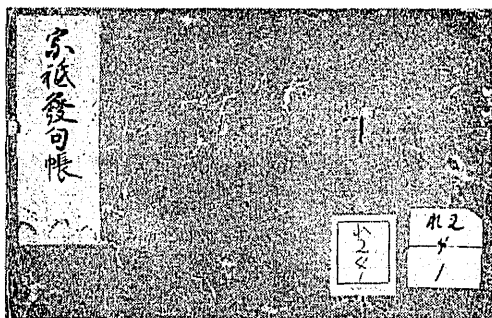


牡丹花肖柏和歌色紙 (社頭祝言)

北摂の武将によって主催された主権されたものであつたかと思えます。文明十七年能勢因幡守頼則による「新往吉千句」、長享二年(一四八八)、やはり頼則による



牡丹花肖柏画像



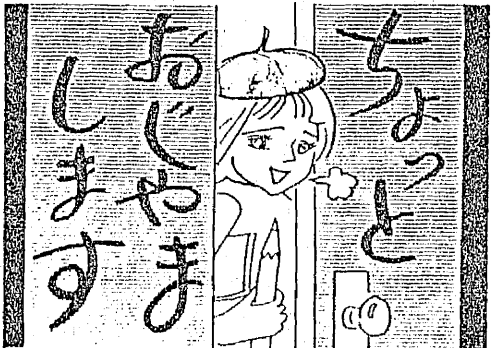
『宗祇発句集』(大阪天満宮蔵)

たものです。以後、肖柏は池田を拠点に周辺の寺社で開催される歌会や連歌会に、また、時に応じて京都へと広範な活動を続けています。「池田千句」、「春夢草」が編まれ、三条西実隆らとの多くの書簡の往復にその一端を知ることが出来ます。

一方肖柏は、堺の町衆とも深い交渉があり、永正十五年(一五一八)には堺へ移り、大永七年(一五二七)その地で没することになります。

池田へ居を移した背景には、当然池田氏との深い関係が存在したわけですが、経済的な繁栄はもとよりのこと、この池田の地が、また、池田一族が文化というものを理解しそれをそしやくする資質を備えていたことを見逃してはならない点であると思えます。江戸時代、多くの文人墨客が池田に去来するようになった遠因は、池田氏ももっていたこの文化的資質にまでさかのぼる必要があるのではないのでしょうか。

※特別展「戦国の動乱と池田氏」十月二十一日〜十一月二十六日、午前九時〜午後五時。(火曜、十一月一日、四日、二十三日は休館)  
※記念講演会  
演題「畿内大名池田氏の性格について」  
講師は岡山大学石田善人氏。  
十一月十二日(日)、午後二時から歴史民俗資料館(五一・三〇一九)で。無料。



高校時代、サリドマイド被害で、両手のない女性が車に乗って活躍している映画を見て、「自分も運転免許を取って社会参加しよう」と決意。

高校卒業後、門真市の運転免許試験場で障害者の基礎体力や運動能力を調べる運転適性検査を受けたが、脳性マヒ特有のバランス感覚の悪さから、何度も

## 初乗り、新たな目標に向けて

### ハンディ乗り越え みごとに運転免許を



桂文福さんと團らんのひとときを(10月14日、山脇さんの自宅)

九月二十五日、両足だけで運転できるように改造された乗用車が届き、さっそく、自宅周辺を約三十分間、ドライブ。

山脇さんは「苦勞がやっと報われました。まだ少し不安はありますが、当分は近くでしっかりと練習します。自信がつけば、岡山で知りあつた友達の家へ行ってみよう。また、これからは雑貨店の仕事だけではなく、障害者仲間のために、各地を走り回りたい」と目を輝かせています。

この日、山脇さんは、両足だけで運転できる改造車が届き、喜びの初運転をしていました。

山脇さんは、生まれて間もなく脳性マヒにかかり、両手足に障害が残ったという。今も両手が全く動かず、歩行も困難。しかし、比較的障害の軽い両足で、食事や身の回り、字を書いたりレジを打ったり自分でこなしています。

不合格になりました。しかし、不合格にも屈せず、障害者の親睦雑誌の編集などを手伝いながら、自立の道をさぐり、二年前、自宅近くに、地域に根をおろし、「どっこいしょ」と腰を据え、障害者と健常者の交流の場に、「雑貨店」どっこいしょを開店しました。足を使ってレジを打ち、



▲雑貨店「どっこいしょ」で開かれた「どっこいしょ寄席」に全盲の笑福亭伯鶴が友情出演

こうだった山脇さんも、六月十三日、路上走行のカーブで、運転中に体が倒れてしまい、すっかり落ち込むという一幕もあつたそうですが、重度障害者として、はかばか早い八十一時間の教習で、七月の運転実技の検定に合格。八月二十四日には、府公安委員会の学科試験も一回でパス。改造車の運転に必要な念願の免許証を二十五日に手にしました。

ノートをつけるなど、懸命に働くなか、運動機能も向上。ことしの三月、やっと六年がかりで運転適性が認められ、岡山県笠岡市の西日本障害者運転訓練センターに入所。免許取得に挑戦と必死に練習に励み、五月二十四日、二回目の挑戦で、仮免許検定にパス。初めての路上走行は思ったより怖くなく、と意気軒